

市民意見交換会で市が内容を確認し、後日お答えするとお約束したご質問と答え

《 回答作成：町田市 》

7月26日(木) 町田市役所(新庁舎)

【問1】

ガスフォルダー内膜の安全性・耐久性について確認されているのか。

【答1】

ガスフォルダー内膜は、一般にポリエステル樹脂繊維の両面に塩化ビニル樹脂をコーティングしたものが使われています。

ガスフォルダーの膜は、内膜、外膜とも風圧力、積雪過重、地震力などを想定し、法令(メンブレンガスホルダーに係るガイドライン)に示された基準を満たすことが義務付けられており、国内実績でも過去に爆発事例はありません。

なお、ガスフォルダーの圧力は5kPa未満と低圧で、LPガスボンベの圧力(800~900kPa)と比べても160分の1以下の圧力となり、安全性を配慮しています。

7月27日(金) 町田リサイクル文化センター

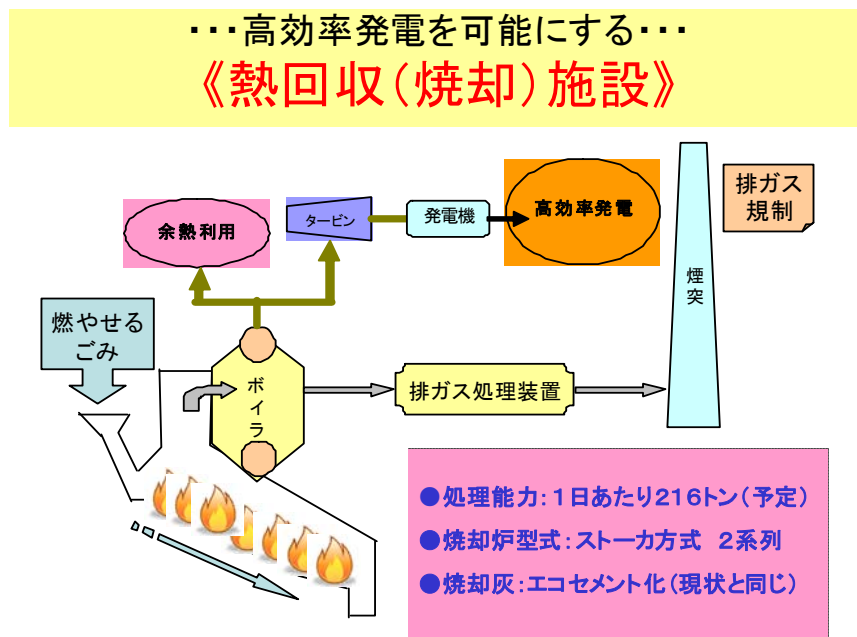
【問2】

熱回収施設とバイオガス化施設のプロセスフローを明らかにしてほしい。

【答2】

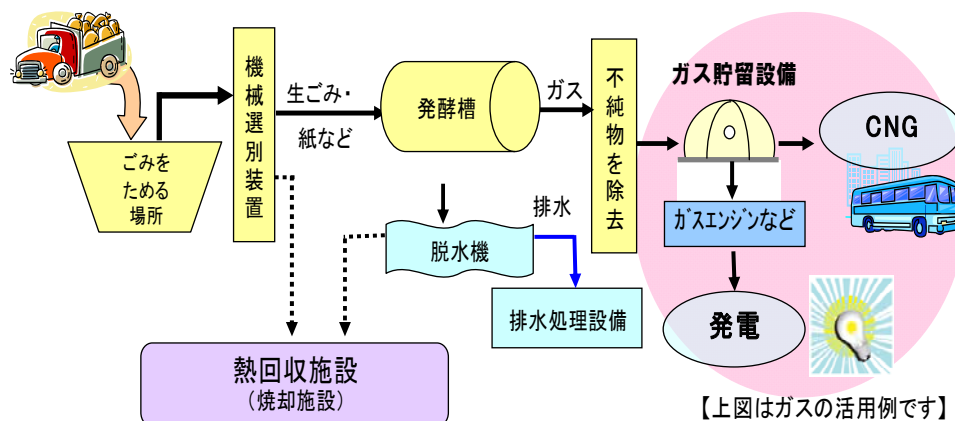
現在、検討を進めている熱回収施設とバイオガス化施設のプロセスフローは以下のとおりです。

[熱回収施設]



[バイオガス化施設]

…生ごみをエネルギーに変える…
《バイオガス化施設》



【問3】

建設候補地選定の際、既存のリサイクル文化センター建設当時の土地利用計画、まちづくり計画の市のマニフェストとの整合性について

- (1) 東京都市モノレール中継基地建設
- (2) 総合グランド建設

【答3】

町田リサイクル文化センター整備等の際し、周辺にお住まいの皆さんとお約束した内容につきましては、現在、道路改良事業を進めております忠生311号線をもって完了いたします。

また、町田市廃棄物最終処分場閉鎖後の跡地活用例としてお示ししました多摩都市モノレールの中継基地、総合グランドにつきましては、最終処分場の閉鎖が確定した段階で取り組みを進めてまいります。

なお、最終処分場につきましては、適正に閉鎖し廃止するため、「町田市廃棄物最終処分場周辺環境保全協議会」を設置し、周辺にお住まいの皆さんとの緊密な連携のもと、モニタリングを充実させ、測定結果を公表させていただいております。

鶴川市民センター 8月1日(金)

【問4】

- (1) 候補地の内、液状化の危険についての配慮はされているのか。ごみ処理場（竜谷）は、関東大震災の影響で山砂が噴出したと聞いているが液状化の心配はないのか。
- (2) 立川断層と鶴見川の接する付近に液状化の危険性がある箇所がある。再度確認をして欲しい

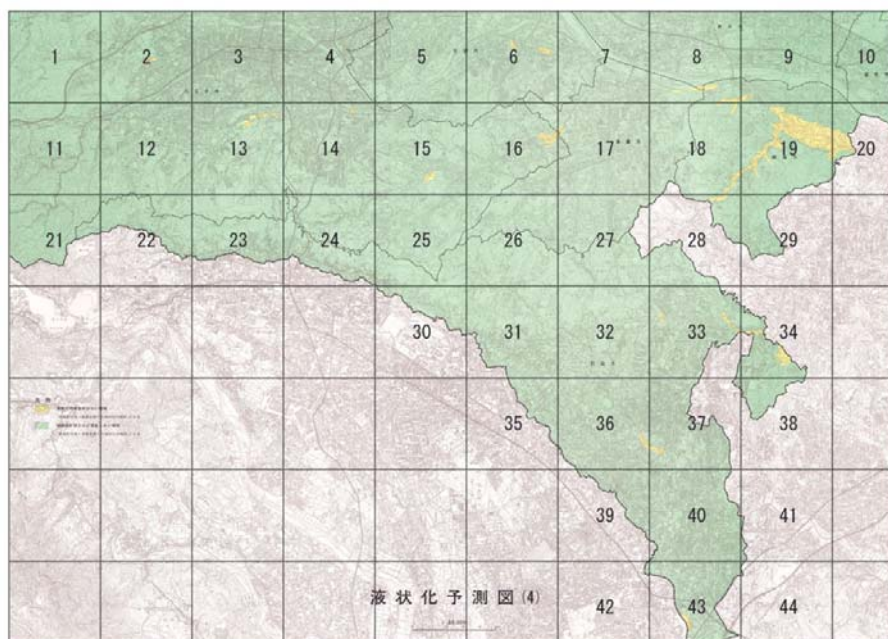
【答4】

(1) 東京都における液状化予測図は、1987(昭和 62)年に作成した「東京低地の液状化予測図」と、東京都土木技術支援・人材育成センターの 1996(平成 8)年度の研究成果「多摩地域の液状化予測」を一本化するとともに、東京都港湾局「東京港埋立地盤の液状化予測」[1993(平成 3)年度]を合本したものです。この液状化予測図では、東京都全体を「液状化が発生しやすい地域」、「液状化の発生が少ない地域」「液状化の発生がほとんど発生しない地域」の 3 区分に分けて表記しています。

町田市内では、ごく一部の地域が「液状化の発生が少ない地域」となっておりますが、それ以外の地域は「液状化の発生がほとんど発生しない地域」に区分されております。なお、現在選定を進めております建設候補地につきましては、全ての候補地が「液状化の発生がほとんど発生しない地域」となっております。

さらに、東京都では、東日本大震災を機に、2011(平成 23)年 9 月に「東京の液状化予測図見直しに関する専門アドバイザー委員会」を立上げ、2012(平成 24)年度末までに液状化予測図の見直しを完了させることとしております。町田市としても東京都との連絡を緊密に行い、見直し後の液状化予測図を下に迅速な対応を進めていくことにしております。

東京都の液状化予測図 多摩南部（出典：東京都土木技術支援・人材育成センター）



(2) 立川断層は、政府地震調査研究推進本部によると「関東山地東部から武蔵野台地西部にかけて分布する活断層帯です。立川断層帯は、埼玉県入間郡名栗村から東京都青梅市、立川市を経て府中市に至る断層帯で、名栗断層と立川断層から構成されています。」とあります。

また、東京都でも、東京都地域活断層調査委員会を組織し、1997(平成9)年度および1998(平成10)年度に立川断層の調査を実施しており、政府地震調査研究推進本部と同様の結論を得ています。

したがって、現在までに、町田市内では、立川断層は確認されておられません。

出典：地震調査研究推進本部

